



ちょっと いいかい(医~介)



高齢になると処方される薬の数が増え、副作用が起こりやすくなるので注意が必要です！

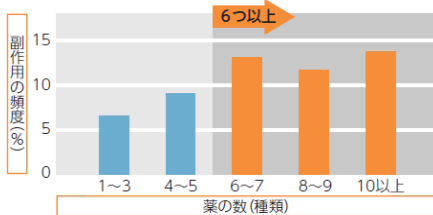
高齢者が 気を付けたい **多すぎる薬と副作用のあれこれ**

高齢になると、複数の持病を持つ人が増えてきます。そして、病気の数だけ処方される薬も多くなります。70歳以上の高齢者では6つ以上の薬を使っていることも珍しくありません。薬とうまく付き合っていくために、薬のことをもっと知っていきましょう。

① 薬が増えると副作用が 起こりやすくなります

高齢者では、処方される薬が6つ以上になると、副作用を起こす人が増えることが分かっています。ですから、医師は薬剤数を減らせないか見直しをしたり、増やさずに済む方法を考えたりしています。

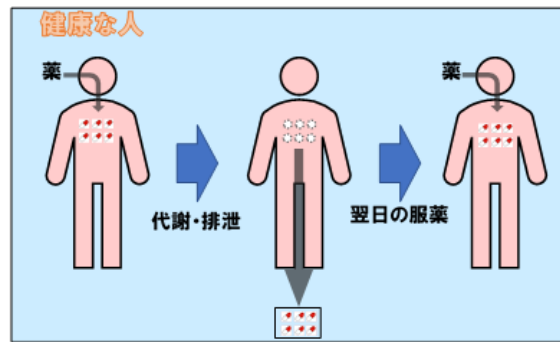
薬の数と副作用の頻度との関係



引用：高齢者の多剤処方見直しのための医師・薬剤師連携ガイド作成に関する研究班「高齢者が気を付けたい多すぎる薬と副作用」

② 高齢者に副作用が多くなる理由

高齢になると肝臓や腎臓の機能が下がり、代謝や排泄する力が低下することで、薬が体に残り、効き過ぎや副作用が起こりやすくなります。



③ 高齢者の薬との付き合い方

自己判断で薬の使用を中断してはいけません

多すぎる薬を減らすことは大事ですが、薬は正しく使ってこそ病気の予防や生活の質の向上に役立ちます。自己判断による調整や中止は絶対にやめましょう。

使っている薬は必ず伝えましょう

複数の医療機関を利用している方は、薬が重複したり増えすぎたりしないように、かかりつけ医や薬剤師を持ち、お薬手帳を1冊にまとめて、使っている薬(市販薬も含めて)を正確に伝えましょう。

**薬について疑問があれば、
かかりつけの医師あるいは薬剤師に相談しましょう。**

磯和宏薬剤師からのアドバイス

疾患別専門医療を受ける事が最善のように思われますが、多病になりがちな高齢者にとっては、必ずしもそうではありません。過少でも過剰でもない医療や、生活を豊かにするための医療のほうが大切になります。そのような医療を目指すためには、多くの診療科を受診するのではなく、かかりつけ医との関係を大事にして、必要な場合に疾患別専門医を受診するのが良いのではないのでしょうか。どうしても複数の病院を受診する場合、調剤薬局を1ヶ所にする事や「お薬手帳」を1冊にまとめる事で、薬の重複や過剰な服薬を防止できるようにしてください。

